

救急総合医を育成

川崎医科大学に寄付講座

県が協定

川崎医科大学（倉敷市）総合診療医学講座」を（松島）は本年度、県の開設した。医療従事者をカバードできる「総合診療医」の育成を目指す。18日、県と講座開設に関する協定を結んだ。

地域医療を担う人材の育成を目的にした県の寄付講座開設は、岡山大に続いて2例目。

川崎医科大学の講座は、日本集中治療医学会理事長の氏家良人教授ら同大の教員5人が担当。県北部などの救急病院へ出向き、医療従事者を指導するほか、同大付属病院以外の救急病院と連携し、救急に対応できる総合診療医の養成プログラムの開発などに当たる。4月に活動を始めており、氏家教授が岡山市の医師数が県北部で全

（岸研一）



協定に調印し、握手する川崎理事長（左）と伊原木知事

市内の病院で指導に取組んでいる。講座の費用は県が国の基金を活用して寄付する計画で本年度分は3千万円を予定。講座は来年度以降も継続する方針。県庁であった協定締結式で、伊原木隆太知事は人口10万人当たりできる総合医を求めたい」と述べた。

（C）山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。